

「仙台市環境基本計画(杜の都環境プラン)」の 中間評価(案)について

平成27年11月6日 第3回仙台市環境審議会

中間評価の構成

第1章 「杜の都環境プラン」の概要及び中間評価の実施

第2章 分野別施策の取組状況

1. 低炭素都市づくり
2. 資源循環都市づくり
3. 自然共生都市づくり
4. 快適環境都市づくり
5. 良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり

第3章 総括

杜の都環境プランの位置づけ及び計画期間

- 仙台市環境基本条例第8条に定められた「仙台市環境基本計画」であり、本市の環境の保全と創造に関わる政策・施策の基本的な方向を定めるもの
- 仙台市総合計画で掲げる本市の都市像の実現を図るための環境面の部門別計画
- おおむね21世紀半ばを展望しつつ、平成23年度から平成32年度までの10年間を計画期間とする

※社会情勢の変化や科学技術の進展、平成27年度の地下鉄東西線の開業を見据え、計画期間半ばでの中間評価を予定

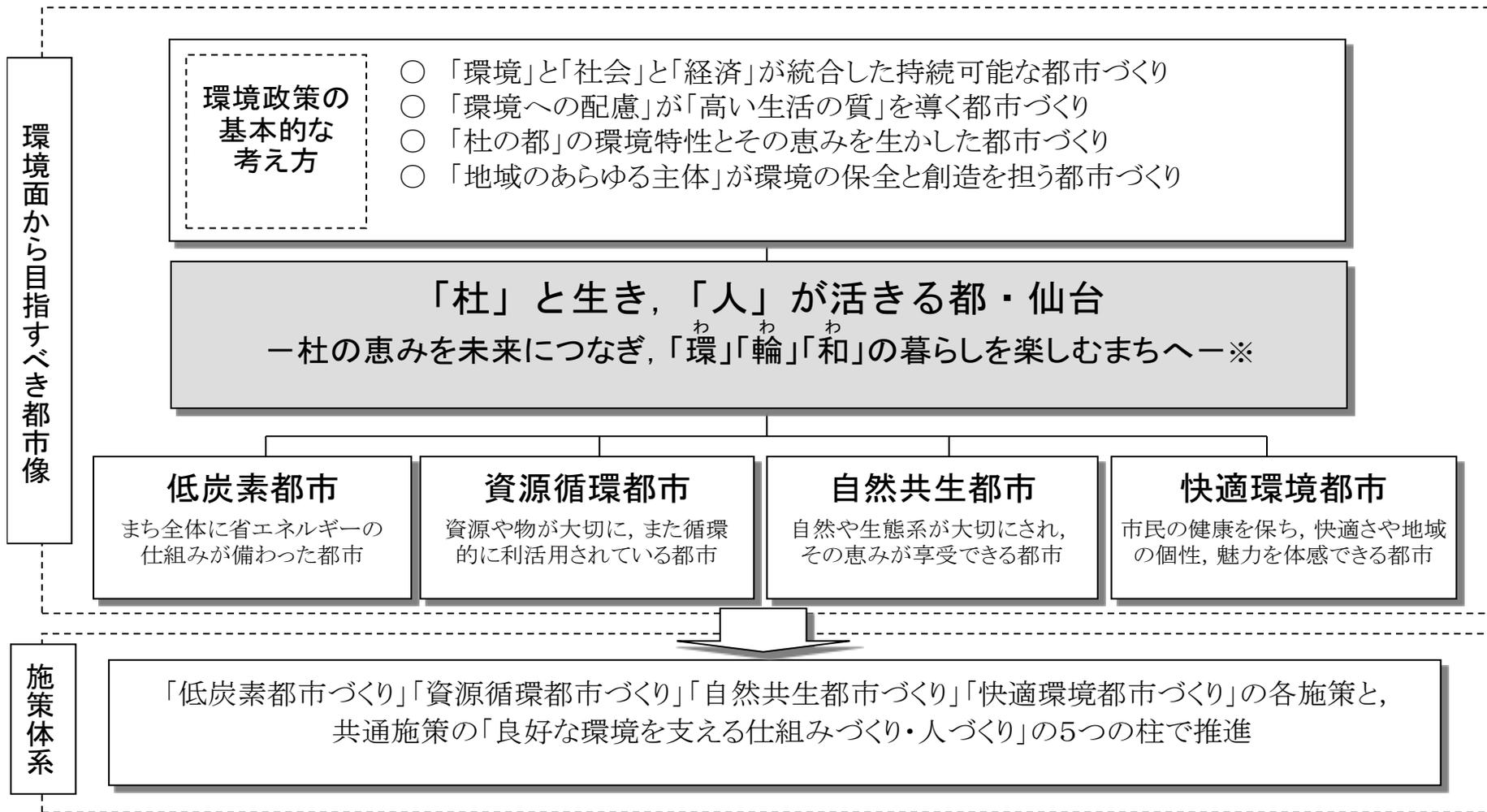
杜の都環境プランの役割・性格

- (1) 環境に関する施策に対して基本的方向を示す
- (2) 都市づくり及び社会経済活動における環境との調和・調整を図る
- (3) 市・市民・事業者に環境に配慮した行動を促す
- (4) 「杜の都・仙台」のアイデンティティ（個性・らしさ）を未来に継承する

杜の都環境プランの課題認識

- ・ 人類共通の課題としての地球環境問題－求められる「低炭素社会づくり」－
地球温暖化の進行による異常気象の発生や、生態系や社会への影響の拡大
- ・ 資源・廃棄物に関する課題
大量消費・大量廃棄に伴う資源の浪費及び環境負荷の増大
- ・ 人と自然の共生関係に関する課題
自然とのふれあいや関心の低下など、自然との関係の希薄化
- ・ より高い生活の質を支える環境づくりに関する課題
PM2.5 への対応等、従来よりも高い基準または踏み込んだ対応の必要性
- ・ 環境への社会的・経済的な関心の高まり
具体的な行動へと結びつける環境教育・学習の重要性の高まり

環境都市像



※ 「環」「輪」「和」はそれぞれ、「杜」の【環】(=自然の持つ循環システム)、「人」の【輪】(=地域社会における人と人とのつながり、そこで生まれる絆)、「杜」と「人」との【和】(=自然と人との調和・共生の関係)を表す。

施策体系

低炭素都市づくり

- ① エネルギー効率の高い都市構造・都市空間をつくる
- ② エネルギー効率の高い交通システムをつくる
- ③ 低炭素型のエネルギーシステムをつくり、広げる
- ④ 低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを広げる

資源循環都市づくり

- ① 資源を大事に使う
- ② 資源のリサイクルを進める
- ③ 廃棄物の適正な処理を進める

自然共生都市づくり

- ① 豊かな自然環境を守り、継承する
- ② 自然の恵みを享受し、調和のとれた働きかけをする
- ③ 生態系をつなぎ、親しみのある市街地の緑化を進める
- ④ 豊かな水環境を保つ

快適環境都市づくり

- ① 健康で安全・安心な生活を支える良好な環境を保つ
- ② 景観・歴史・文化等に優れた多様な地域づくりを進める

良好な環境を支える 仕組みづくり・人づくり

- ① 地域環境力を向上させるまちづくりの仕組みをつくる
- ② 環境の視点が組み込まれた社会経済の仕組みを整える
- ③ 環境づくりを支える市民力を高める
- ④ 環境についての情報発信や交流・連携を進める

中間評価の実施

【杜の都環境プラン(第6章)】

杜の都環境プランの計画期間中に生じる情勢の変化等に対応するため中間評価を行い、必要に応じて計画の見直しを行う

- ・ 社会経済情勢や科学技術の発展
- ・ 地下鉄東西線の開業 等



計画期間の折り返し年にあたる本年度に、定量目標達成状況や施策の取組状況等について中間評価を行った

中間評価に関連する調査等

杜の都環境プラン市民意識調査

調査時期：平成27年6月30日～7月15日

調査対象：20歳以上の市民3,000人及び市立中学校25校に在籍する中学2年生(1クラス)

調査内容：周辺環境に対する満足度、環境配慮行動を実践する割合など

回収数：一般955件、中学生691件

環境団体に対する意識調査

調査時期：平成27年7月13日～8月6日

調査対象：環境に係わる活動を行う市民団体16団体

調査内容：本市の環境の現状及び施策に対する評価、今後期待する施策など

回収件数：5団体(郵送3件、面談2件)

杜の都環境プラン市民ワークショップ

開催期日：平成27年9月5日

内 容：4つの都市像をテーマに、担当課から施策説明のうえ意見交換を実施

参 加 者：市民13名

生きもの認識度調査

調査時期：平成27年6月22日～7月17日

調査対象：市立中学校64校の1年1組に在籍する全生徒1,935人及びその家族1人

調査内容：身近な生きもの12種類の認識度や保全上重要な動植物の認識度など

回 収 数：3,527件

猛禽類生息環境調査

調査時期：平成27年8月5日～10月7日

調査対象：オオタカ及びサシバ

調査内容：平成21年度と平成26年度を比較対象年度とした場合の生息環境の変化

プラン策定後の社会経済情勢の変化

- 東日本大震災に伴う環境への直接的影響
 - 太平洋に面する「東部田園地域」、「海浜地域」の美しい景観や環境が一変
 - 丘陵地区等における地すべりや擁壁崩壊などの深刻な被害
 - 震災後の変化
 - プラン策定当時に想定していない人口増加
 - 復興需要に伴う経済活動の活発化
 - 火力発電比率増大による電力からの二酸化炭素排出係数の上昇
- 温室効果ガス総排出量やごみ総量の増加など

低炭素都市づくり(1) 施策項目及び取り組み事例

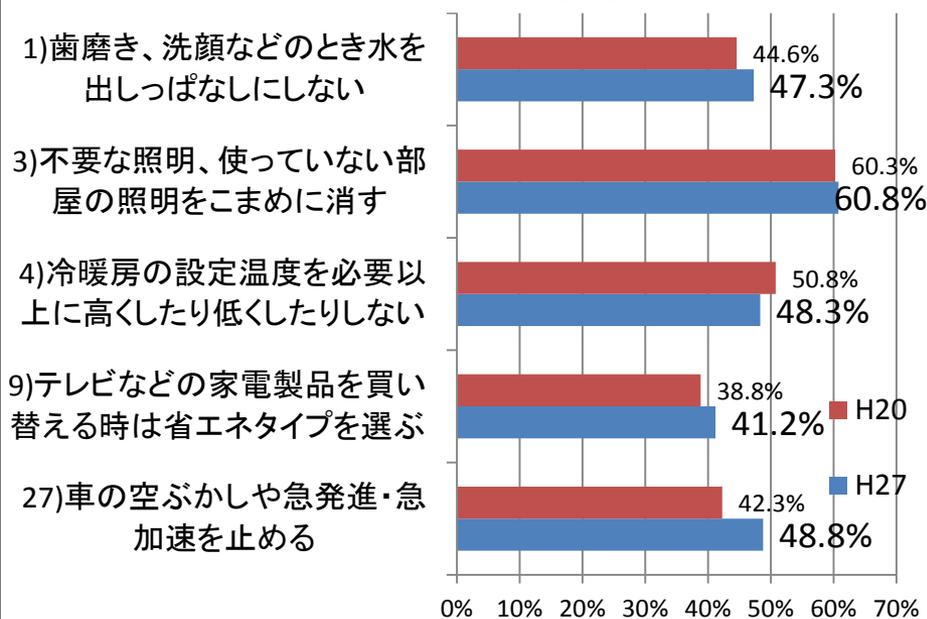
分野別施策	施策項目	施策例
①エネルギー効率の高い都市構造、都市空間をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 持続可能な都市の骨格をつくる ➢ エネルギー負荷の少ないまちをつくる ➢ 森林の二酸化炭素吸収・固定能力の維持向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●あすと長町土地区画整理事業や都市計画道路等の整備により広域拠点を形成 ●田子西及び荒井東地区におけるエコモデルタウン事業の実施
②エネルギー効率の高い交通システムをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ➢ エネルギー効率の高い交通体系を構築する ➢ 環境負荷の少ない交通体系の利用を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ●東西線の整備に合わせ八木山動物公園駅などの駅前広場等の整備を行い、駅の結節機能を強化 ●バス路線再編のほか、公共交通の利便性の向上に向けIC乗車券icscaを導入
③低炭素型のエネルギーシステムをつくり、広げる	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 次世代自動車や最新の省エネルギー機器等の普及と効率的なエネルギーの利用を進める ➢ 建築物のエネルギー対策 ➢ 省資源・省エネルギー技術の研究と普及促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定避難所等への防災対応型太陽光発電システムの導入のほか、公共施設へのBEMSの導入、LED照明への切り替え等、省エネルギー・再生可能エネルギー設備を導入 ●せんだい☆スマートハウス補助金による再生可能エネルギーの普及促進
④低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを広げる	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを誘導する仕組みをつくる ➢ 低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルへの意識を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ●「省エネ」「創エネ」「蓄エネ」の3つのEを推進する「せんだいE-Action」の展開 ●「エコ・クッキング」の開催による低炭素型のライフスタイルへの意識啓発

低炭素都市づくり(2) 市民の意識①

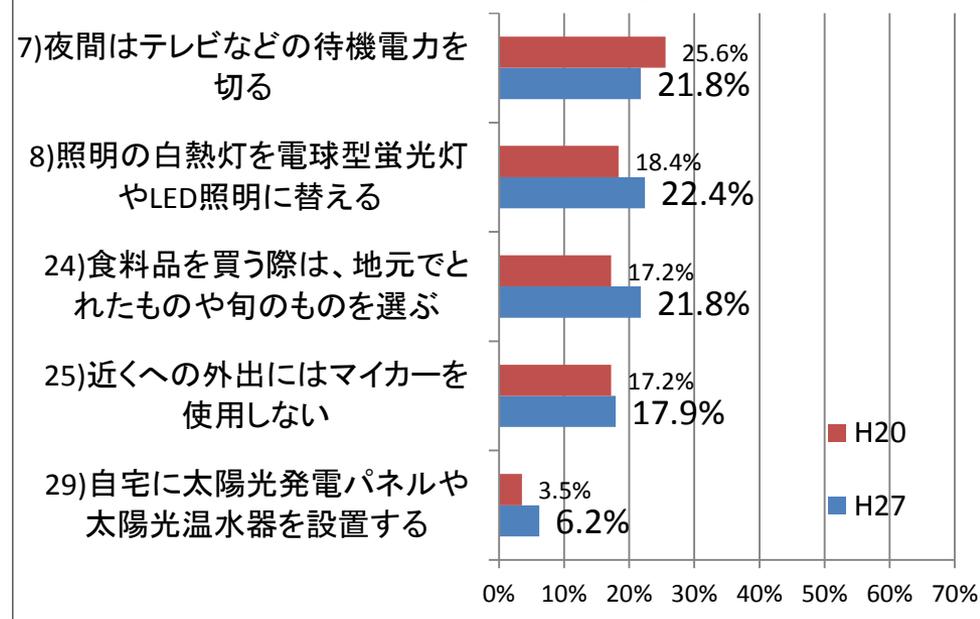
市民意識調査 (H27. 7)

【問4】環境に配慮した行動を行っていますか(※低炭素都市づくりに係る17項目のうち一部を抜粋)

17項目のうち「常にしている」割合が高い項目



17項目のうち「常にしている」割合が低い項目

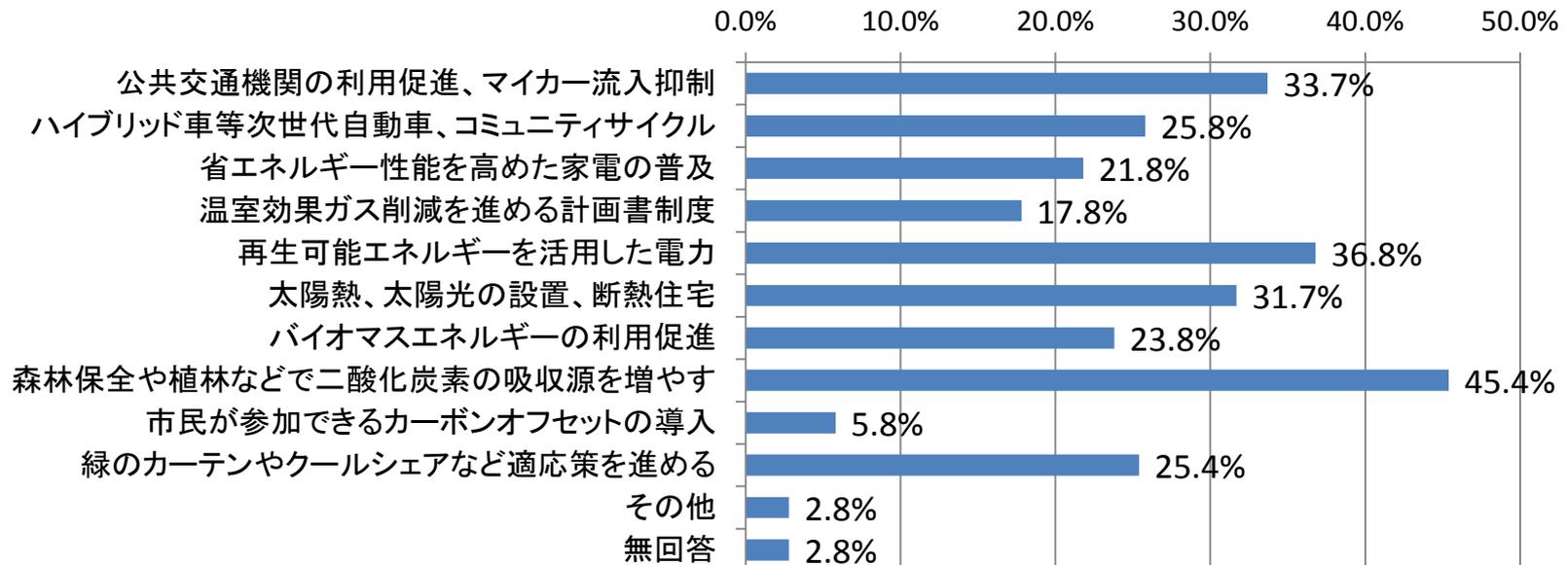


- ・現状では「常にしている」割合は少ないものの、「照明の白熱灯を電球型蛍光灯やLED照明に替える(22.4%)」など、近年の環境技術の進歩普及が市民の環境配慮行動にも表れている。

低炭素都市づくり(2) 市民の意識②

市民意識調査 (H27.7)

【問10】 今後、温室効果ガスの排出量を減らすためにどのような取組を実施するのがよいと思いますか(3つまで複数回答)



- ・ 森林保全に係る割合が最も高く、温室効果ガス排出量の削減だけでなく、自然環境を守る取り組みが求められている。
- ・ 温室効果ガス排出抑制策のなかでは、公共交通の利用促進を挙げた市民が多い。
- ・ 温暖化への適応策については、全体の約1/4の市民が選択するにとどまっており、今後、具体的な事例を例示するなどして啓発していく余地がある。

低炭素都市づくり(3) 定量目標の進捗

【温室効果ガス総排出量】

基準値：8,338千t-CO₂ (平成17年度)

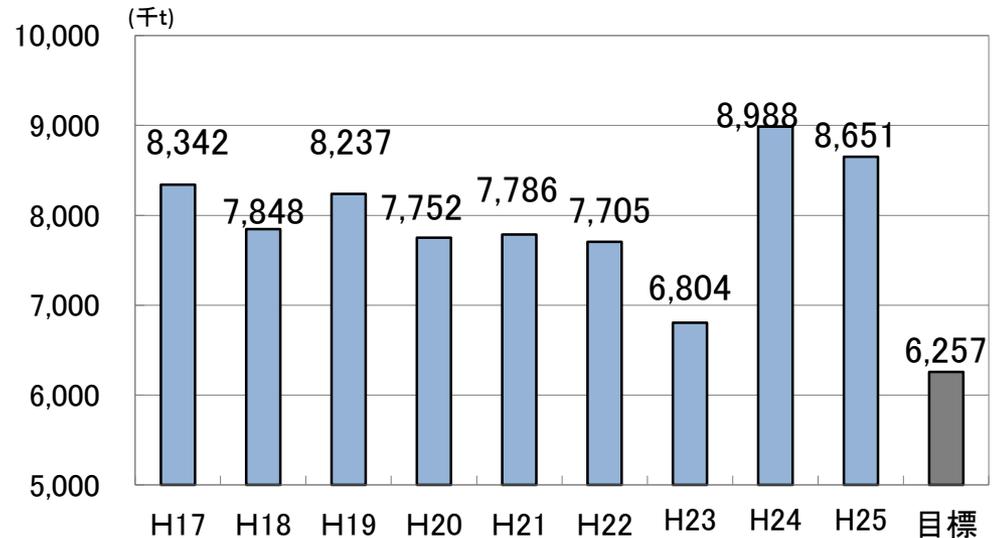
目標値：6,254千t-CO₂ (平成32年度)

※温暖化係数補正後

基準値：8,342千t-CO₂ (平成17年度)

目標値：6,257千t-CO₂ (平成32年度)

実績値：8,651千t-CO₂ (平成25年度
速報値)



【進捗に対する評価】 ×

【参考】

	H17	...	H22	H23	H24	H25
市域内でのエネルギー消費量推計(千TJ)	142		143	111	142	138
電力排出係数(東北電力、kg-CO ₂ /kWh)	0.510		0.429	0.547	0.600	0.591

【進捗に対する評価】

平成23年度以降、市域内のエネルギー消費量については大きな変化が生じていない一方、震災後の電源構成の変化により電力排出係数が大幅に上昇した。

このため、本市域内の温室効果ガス総排出量は、計画策定時の目標値に比べ増加している。

低炭素都市づくり(4) 取り組みに対する評価

分野別施策	取り組みの経過	評価
①エネルギー効率の高い都市構造、都市空間をつくる	土地区画整理事業や道路整備事業等が概ね計画どおり進捗	環境負荷の少ない機能集約型都市の形成が進行
②エネルギー効率の高い交通システムをつくる	地下鉄東西線整備, ICカード乗車券icscaの導入, パークアンドライドやコミュニティサイクルの推進	公共交通の利用促進に向けた環境整備を図ったところであり、一層の利用促進が必要
③低炭素型のエネルギーシステムをつくり, 広げる	家庭での再生可能エネルギーや省エネルギーシステムの導入, 公共施設でのBEMS導入等	市民向けや公共施設における取り組みのほか、事業者向け施策も加えた効果的な取り組みが必要
④低炭素型のライフスタイル・ビジネススタイルを広げる	「せんだいE-Action」等メディアを活用した積極的な情報発信、環境マネジメントシステムの取得支援	意識の向上に加えて、主体的な取り組みの促進のため具体的でわかりやすい情報提供が必要

資源循環都市づくり(1) 施策項目及び取り組み事例

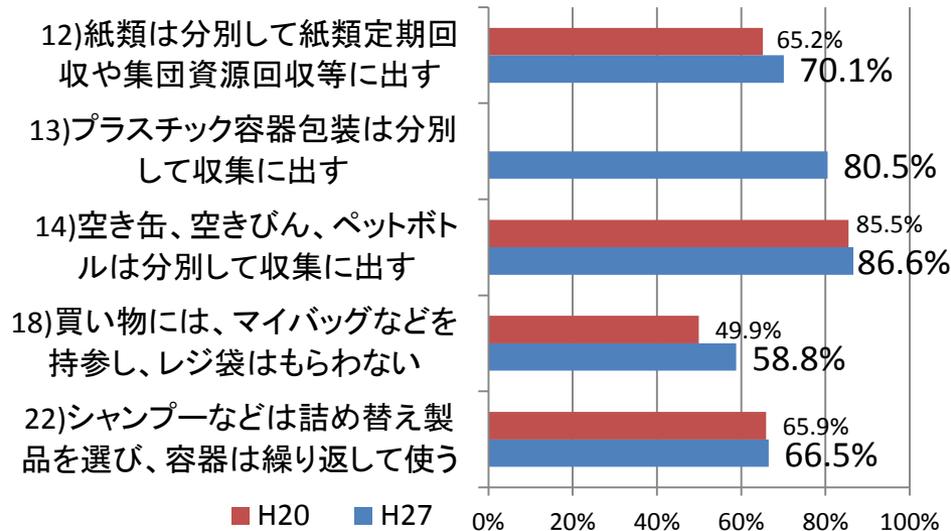
分野別施策	施策項目	施策例
①資源を大事に使う	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 資源を大事に使う日常的な行動の定着を図る ➤ ライフサイクルを考慮した商品・サービスの提供を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ●啓発冊子の作成・配付，市政だよりやホームページを活用した情報発信、クリーン仙台推進員や町内会等との連携による地域の実態に応じた広報啓発 ●レジ袋の削減に関する懇談会の開催、マイバッグやマイはし持参の推進 ●環境配慮型店舗「エコにこショップ」認定等
②資源のリサイクルを進める	<ul style="list-style-type: none"> ➤ リサイクルの推進と拡大を図る ➤ 地域や市民の活動を生かした取り組みを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ●使用済み食用油リサイクルモデル事業（H23～） ●布類拠点回収事業（H25～） ●小型家電リサイクル事業（H26～） ●子供会等の集団資源回収実施団体の支援
③廃棄物の適正な処理を進める	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 廃棄物の排出ルールを徹底を図る ➤ 将来にわたって安全・安心なごみ処理体制をつくる。 ➤ 不適正排出・不法投棄対策を強化する 	<ul style="list-style-type: none"> ●処理施設の定期検査や修繕，大規模な基幹改良工事等，施設の長寿命化 ●「産廃110番」の受付及び「産廃Gメン」の監視活動による、不法投棄や野外焼却の防止

資源循環都市づくり(2) 市民の意識

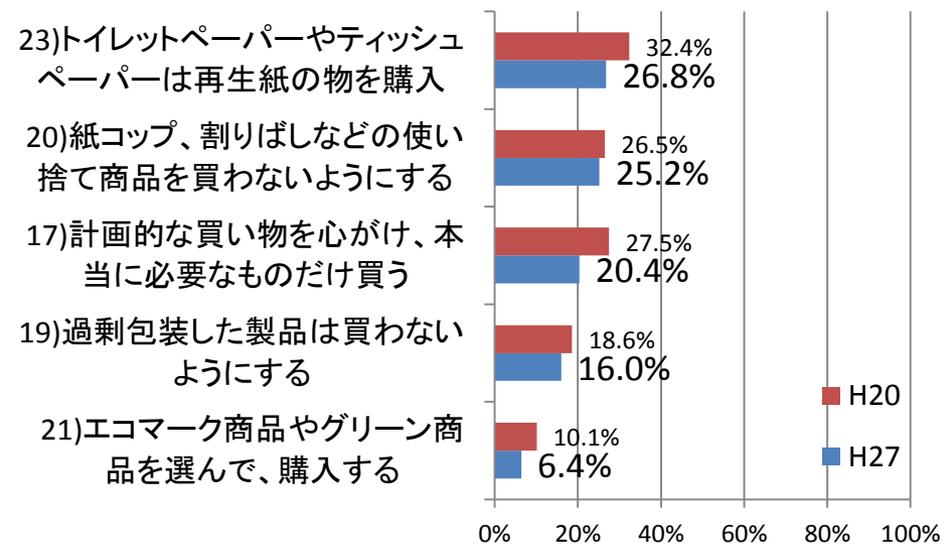
市民意識調査 (H27. 7)

【問4】環境に配慮した行動を行っていますか(※資源循環都市づくりに係る13項目のうち一部を抜粋)

13項目のうち「常にしている」割合が高い項目



13項目のうち「常にしている」割合が低い項目



- ・レジ袋削減キャンペーンを受け、「買い物には、マイバッグなどを持参し、レジ袋をもらわない」が平成20年度に比べ8.9ポイント増加している
- ・ごみの分別について、市民の意識の面では定着してきていると考えられるが、生活ごみの排出実態調査では資源物の混入割合が高く、分別の実践には改善の余地がある

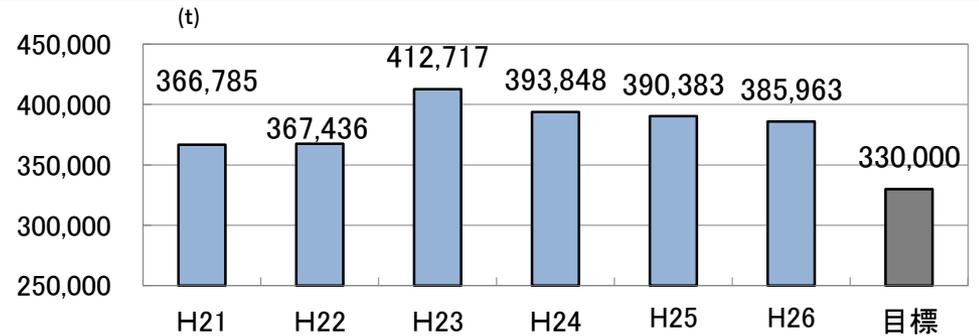
資源循環都市づくり(3) 定量目標の進捗

【ごみの総量】

目 標 : 330,000t

実績値 : 385,863t (平成26年度)

【進捗に対する評価】 ×

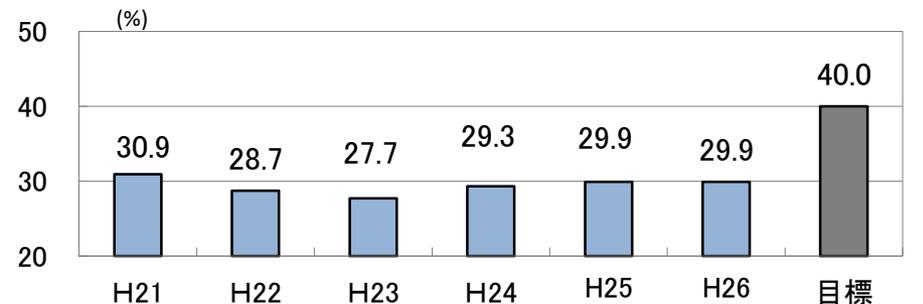


【リサイクル率】

目 標 : 40.0%

実績値 : 29.9% (平成26年度)

【進捗に対する評価】 ×

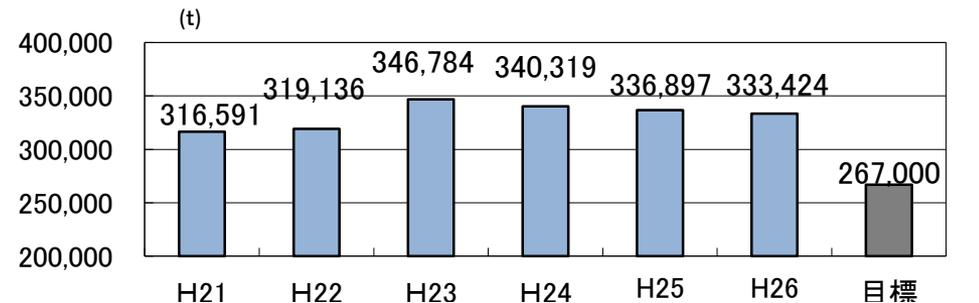


【燃やすごみの量】

目 標 : 267,000 t

実績値 : 333,424 t (平成26年度)

【進捗に対する評価】 ×



【進捗に対する評価】 ごみ減量やリサイクルの推進に向け継続的に活動を進めてきたものの、震災後の人口増加及び社会経済活動の活発化を背景に、震災前と比較してごみの総量が増加するとともに、リサイクル率は低下、燃やすごみの総量は増加傾向にある。 17

資源循環都市づくり(4) 取り組みに対する評価

分野別施策	取り組みの経過	評価
①資源を大事に使う	広報紙の発行、イベント等での食器洗浄車の貸出、環境配慮型店舗等の認定、簡易包装の呼びかけ等の推進	 ごみ減量への意識啓発が図られたが、一層の推進に向け、事業ごみ手数料の見直しをはじめとした具体的な方策の検討が必要
②資源のリサイクルを進める	環境施設を見る会や出前講座、緊急分別キャンペーン、布類の拠点回収事業、小型家電リサイクル事業等の推進	 市民のリサイクル活動に繋がる環境整備が進展したが、分別の認識度の低い市民への働きかけが必要
③廃棄物の適正な処理を進める	クリーン仙台推進員や地域と連携した指導・啓発等の推進	 ごみの適正処理への意識啓発が図られ、今後も継続的な不適正排出対策が必要

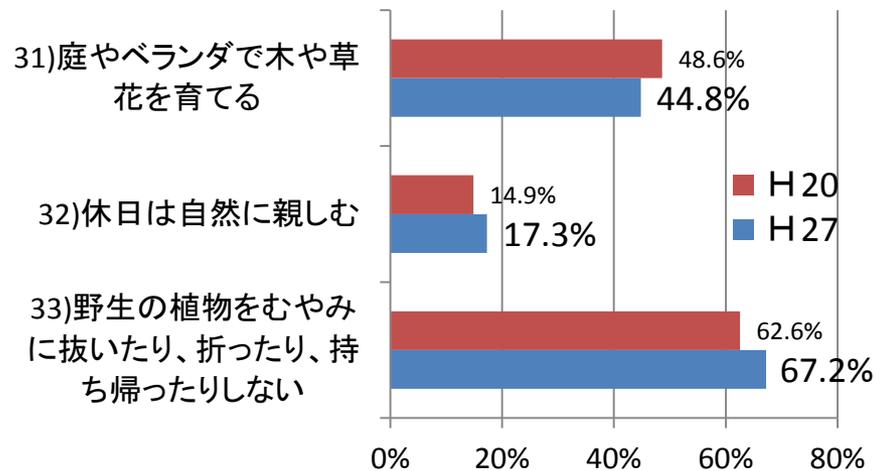
自然共生都市づくり(1) 施策項目及び取り組み事例

分野別施策	施策項目	施策例
①豊かな自然環境を守り、継承する	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 自然環境を保全する ➤ 生物多様性に関する知識を高め、保全を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> ●土地利用調整制度による、自然環境と調和のとれた土地利用の確保 ●環境影響評価制度による、開発行為に伴う環境負荷の回避または低減 ●「せんだい生態系再生コンソーシアム」の設立
②自然の恵みを享受し、調和のとれた働きかけをする	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 里地里山が持つ環境保全機能を維持する ➤ 野生動物との適正な共存関係を保つ ➤ 自然の恵みを通じたふれあいを充実する 	<ul style="list-style-type: none"> ●地元猟友会や地域ボランティア等との連携による有害鳥獣の捕獲、防護柵、箱わな等の設置等による被害防止対策の推進 ●みんなの森づくり事業や青葉区ホタルの里づくり事業など、市民参加による自然環境の維持管理活動
③生態系をつなぎ、親しみのある市街地の緑化を進める	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市街地の緑を守る ➤ 市街地の緑を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ●「杜の都の環境をつくる条例」に基づく保存緑地の指定 ●住宅の生け垣づくりや、緑化重点地区等における屋上や壁面の緑化に対する助成等
④豊かな水環境を保つ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 健全な水循環を確保する ➤ 水辺環境の保全と創造を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ●水源涵養や良好な水質の維持に向けた市有林等の適切な管理 ●天水桶手づくり講座の開催等 ●六郷堀・七郷堀への非かんがい期の通水

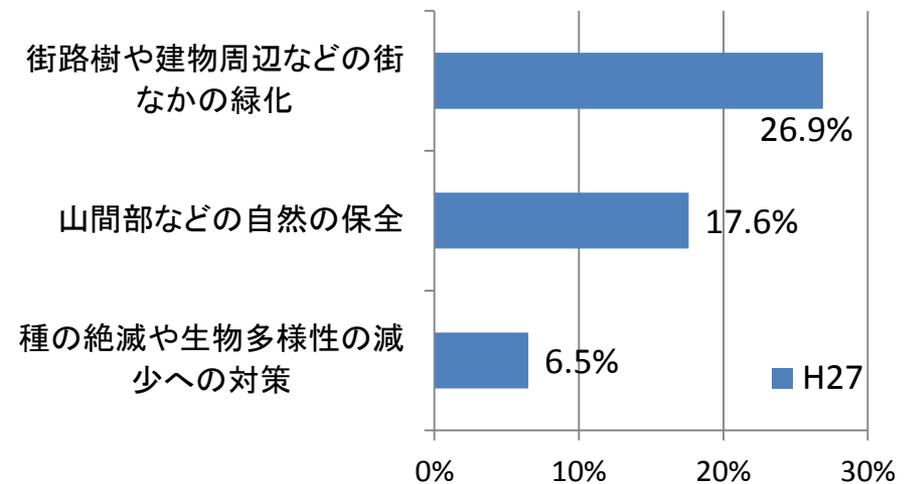
自然共生都市づくり(2) 市民の意識

市民意識調査 (H27. 7)

【問4】環境に配慮した行動を行っていますか(※「常にしている」の回答割合、一部抜粋)



【問8】あなたは、今後仙台市がどのような環境政策・施策を展開していったらよいとお考えですか(※5つまでの複数回答、一部抜粋)



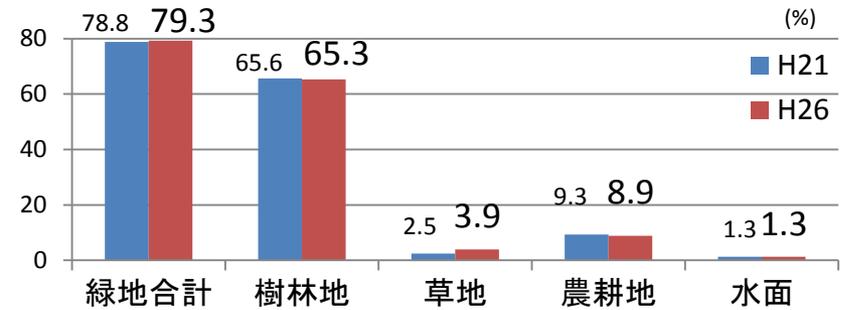
- ・野生の植物を持ち帰らないなど、自然環境の保全に向けた意識は市民に定着している
- ・街なかの緑化に比べ、生物多様性の維持回復への関心は比較的低く、今後の情報発信が必要である。

自然共生都市づくり(3) 定量目標の進捗

【みどりの総量】

目標：78.8%
実績値：79.3% (平成26年度)

【進捗に対する評価】 ○



【猛禽類の生息環境】

目標：現状維持・向上
実績：生息適地の減少が見られる (平成26年度)

【進捗に対する評価】 ×

生息適地の推移 (市街化調整区域)

オオタカ 2,877.3ha → 2,568.8ha
(-10.7%)
サシバ 989.8ha → 860.5ha
(-13.1%)

【身近な生き物の認識度(9種合計)】

目標：448.4%
実績値：386.4% (平成26年度)

【進捗に対する評価】 ×

ツバメ及びカブトムシ・クワガタムシを除く7種(※)の認識度が低下

※カッコウ、モンシロチョウの仲間、アゲハチョウの仲間、セミ、ホタル、トンボ、ウマオイ

【進捗に対する評価】 みどりの総量(緑被率)は維持されているが、震災により沿岸部樹林地が増減した影響が大きく、引き続き推移を見守る必要がある。沿岸部での樹林地や谷地の農耕地の減少等により、猛禽類の生息環境が影響を受けている。また、身近な生き物の認識度は、調査時期が異なり季節要因はあるものの、平成22年よりも低下している。

自然共生都市づくり(4) 取り組みに対する評価

分野別施策	取り組みの経過	評価
①豊かな自然環境を守り、継承する	本市事業における環境負荷の低減、土地利用調整制度や環境影響評価制度の運用、生物多様性に係る情報提供の実施	節度のある土地利用等による環境負荷の低減が図られたが、身近な生き物の認識度低下への対応が必要
②自然の恵みを享受し、調和のとれた働きかけをする	市有林の経営管理、地域循環型農業の推進、野生動物との共存に向けた自主防除対策の推進	それぞれ一定の成果を挙げており継続的な取り組みが必要
③生態系をつなぎ、親しみのある市街地の緑化を進める	保存緑地の指定や、公共施設等の整備における緑化、都市公園等の整備の推進	生物や市民の憩いに配慮した都市づくりが進展したが、今後は「みどりの質」に着目した取り組みが重要
④豊かな水環境を保つ	水源涵養林の保全や地表被覆面の改善、景観や生態系に配慮した河川の保全・整備等の推進	それぞれの取り組みが推進されており、今後とも施策の継続が必要

快適環境都市づくり(1) 施策項目及び取り組み事例

分野別施策

施策項目

施策例

①健康で安全・
安心な生活を支
える良好な環境
を保つ

- 大気環境等を保全する
- 水質環境を保全する
- 土壌・地盤環境を保全する
- その他の環境問題を未然に防止する

- 環境基準に係る定期的・広域的な監視、発生源に対する負荷低減の指導や監視
- 法令に基づく適切な届出や調査等に係る指導
- PRTR制度による化学物質の移動量の把握や、PCBの保管に係る事業者への指導

②景観・歴史・
文化等に優れた
多様な地域づく
りを進める

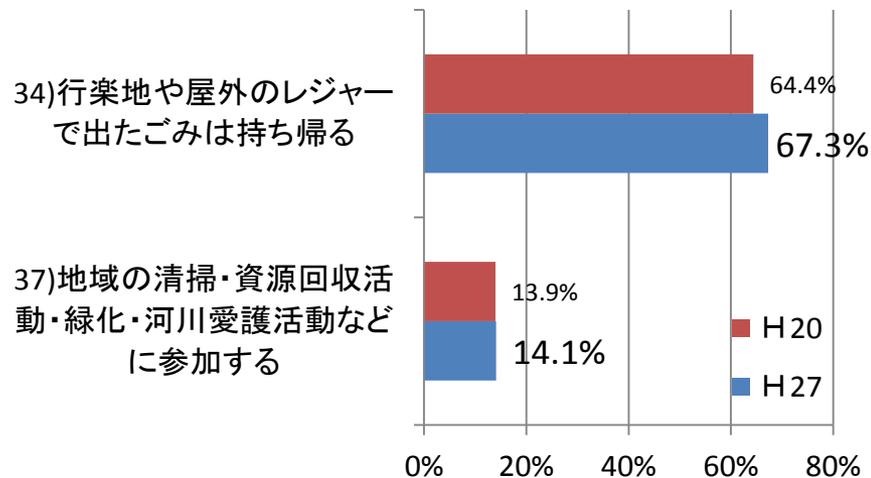
- 美しい景観を保全・形成する
- 歴史的・文化的環境を保全する
- 快適で潤いのある空間を保全・創造する
- 環境の美化を進める

- 「杜の都の風土を育む景観条例」に基づく景観重要建造物等の指定
- 景観計画区域における大規模建築物等についての届出制度の運用
- 地域資源である広瀬川を活用した地域交流事業や、市民協働による「地元学」等の推進
- 市民や事業者と連携した市街地等の清掃活動の実施や、「仙台市落書きの防止に関する条例」に基づく周知活動

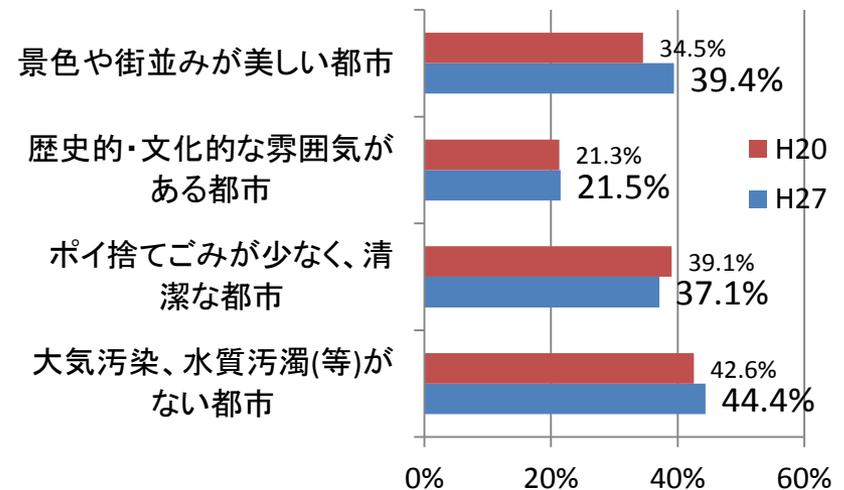
快適環境都市づくり(2) 市民の意識

市民意識調査 (H27. 7)

【問4】環境に配慮した行動を行っていますか(※「常にしている」の回答割合、一部抜粋)



【問7】あなたは、今後仙台市が環境面でどのような都市であればよいと思いますか (※3つまでの複数回答、一部抜粋)



- ・ごみの持ち帰りという快適な環境の保全に関する意識・行動には大きな変化はない
- ・地域の清掃・資源回収活動等への参加については、居住の形態や世帯構成等も影響していると考えられる。
- ・本市の環境面での将来像としては、全選択肢のなかで「大気汚染、水質汚濁(等)がない都市」が最も多く、健康で安全・安心な生活を支える良好な生活環境が重要視されている。

快適環境都市づくり(3) 定量目標の進捗

【環境基準の達成】

目標：非達成の場合はできるだけすみやかに達成、達成の場合はさらに良好にする

実績：一部非達成(平成26年度)

【進捗に対する評価】△

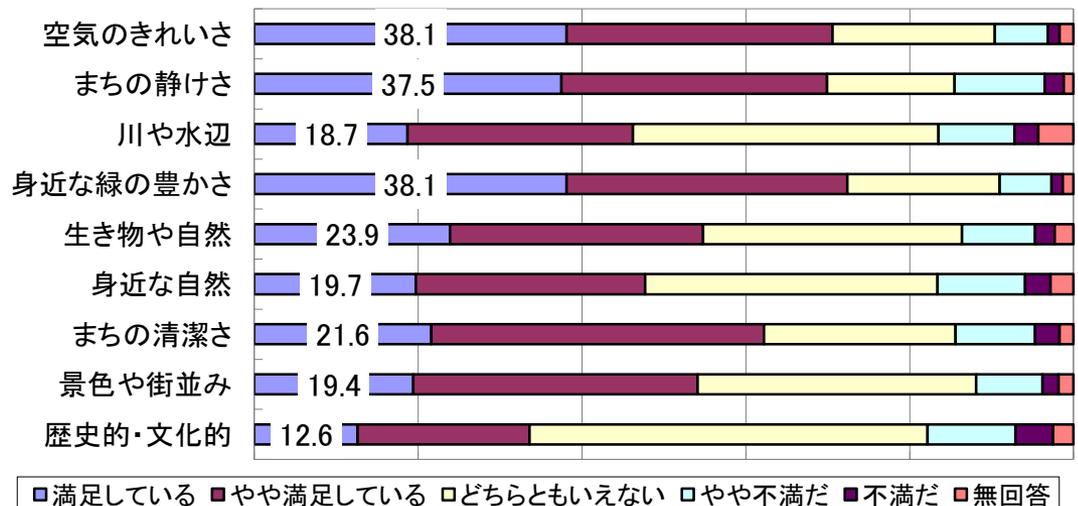
大気汚染（光化学オキシダント）・水質汚濁（COD等）・騒音に係る基準について一部非達成

【環境に関する満足度(9項目合計)】

目標：223.8%

実績：229.6%(平成26年度)

【進捗に対する評価】○



【進捗に対する評価】 環境基準を達成していない項目については、引き続き、原因物質の削減の促進や関係事業者による負荷低減の取り組みを促進する必要がある。

生活環境に対する市民の評価は概ね良好であることから、今後も快適な環境の維持・向上に向けた取り組みを進める必要がある。

快適環境都市づくり(4) 取り組みに対する評価

分野別施策	取り組みの経過	評価
<p>①健康で安全・安心な生活を支える良好な環境を保つ</p>	<p>汚染の発生源に対する指導・監視のほか、エコドライブの啓発、公共交通の利用促進、公用車への次世代自動車の導入を推進</p>	<p>一部の項目については環境基準を達成していないものの、全市的には概ね良好な環境が維持されており、これを維持していくため、継続的に取り組むことが必要</p>
<p>②景観・歴史・文化等に優れた多様な地域づくりを進める</p>	<p>市民参加による地域資源を生かした事業が数多く取り組まれたほか、歴史的・文化的建造物の保全を推進</p>	<p>環境とコミュニティづくりの両面で施策が進展したほか、景観形成が図られており、今後も関係者の協力を得ながら施策を展開</p>

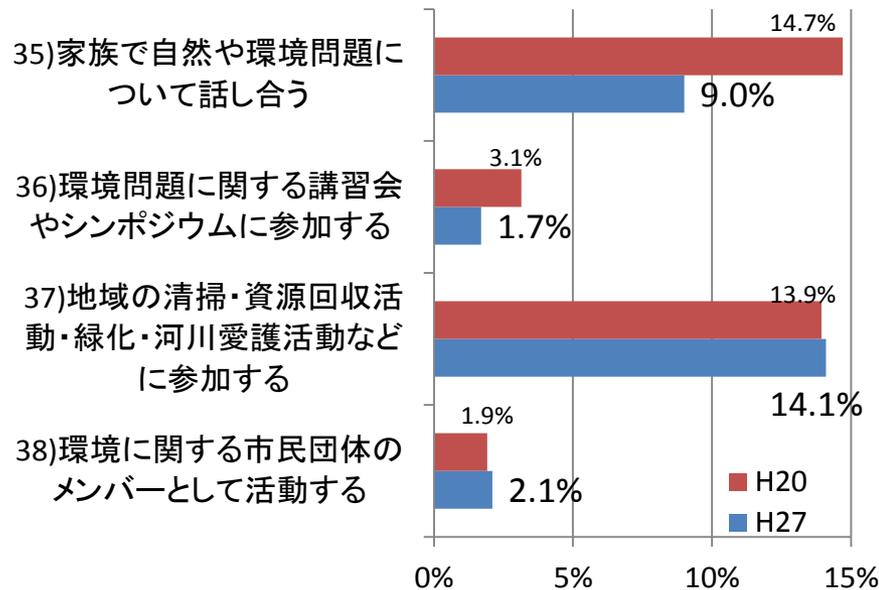
良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり(1) 施策項目及び取り組み事例

分野別施策	施策項目	施策例
①地域環境力を向上させるまちづくりの仕組みをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市民の主体的なまちづくり活動を推進する ➤ 開発事業等における環境配慮を促す制度を充実する ➤ 環境配慮行動を拡大させる 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境影響評価制度等の運用を通じ、市民の意向を生かした地域づくりを推進 ●市民センター等における環境学習講座やイベントの開催
②環境の視点が組み込まれた社会経済の仕組みを整える	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 環境に配慮した行動が広がる仕組みをつくる ➤ 環境ビジネスを創出する ➤ 事業活動における環境配慮を推進する ➤ 環境負荷の少ない商品・サービスが拡大する仕組みをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ●バス・地下鉄企画乗車券「秋のジュニアパスプラス」を発売し、公共交通の利用を促進 ●環境配慮型店舗(エコにこショップ)、環境配慮型事業所(エコにこオフィス)の選定
③環境づくりを支える市民力を高める	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 人材を育成し、活躍の舞台を広げる ➤ 環境に関する学びの機会や場を創出する ➤ 環境活動を広げ、活性化する 	<ul style="list-style-type: none"> ●「杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)」による人材育成、環境学習・環境教育の推進 ●環境交流サロンの運営
④環境についての情報発信や交流・連携を進める	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 分かりやすく、利用しやすい情報を提供する ➤ 知恵や経験を生かした連携を推進する ➤ 環境に関する国際交流を促進し、国際貢献を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●「仙台市の環境」の発行 ●「ワケルネット」「たまきさん」等での環境情報の提供

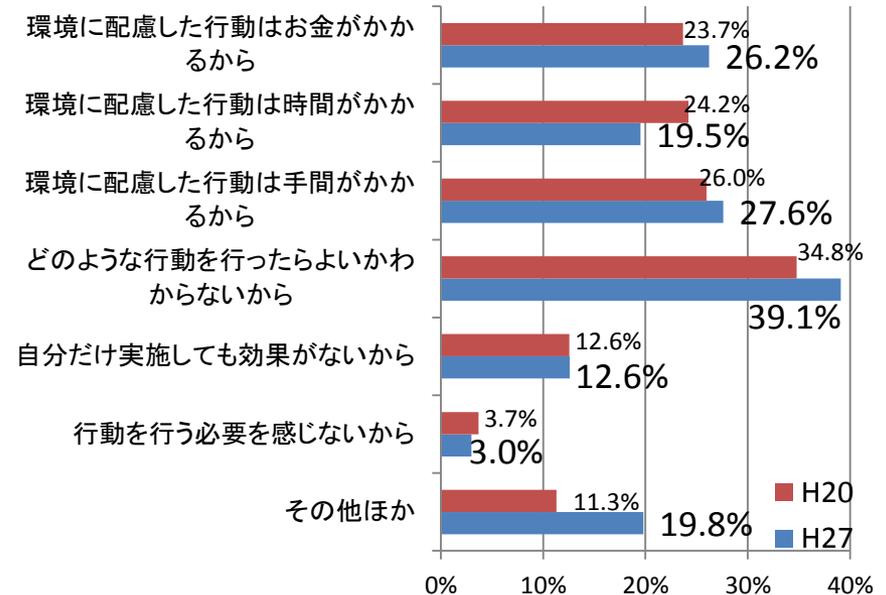
良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり(2) 市民の意識

市民意識調査 (H27. 7)

【問4】環境に配慮した行動を行っていますか(※「常にしている」の回答割合、一部抜粋)



【問5】あなたが、環境に配慮した行動を行っていない理由は何ですか(※「常にしている」の回答割合、一部抜粋)



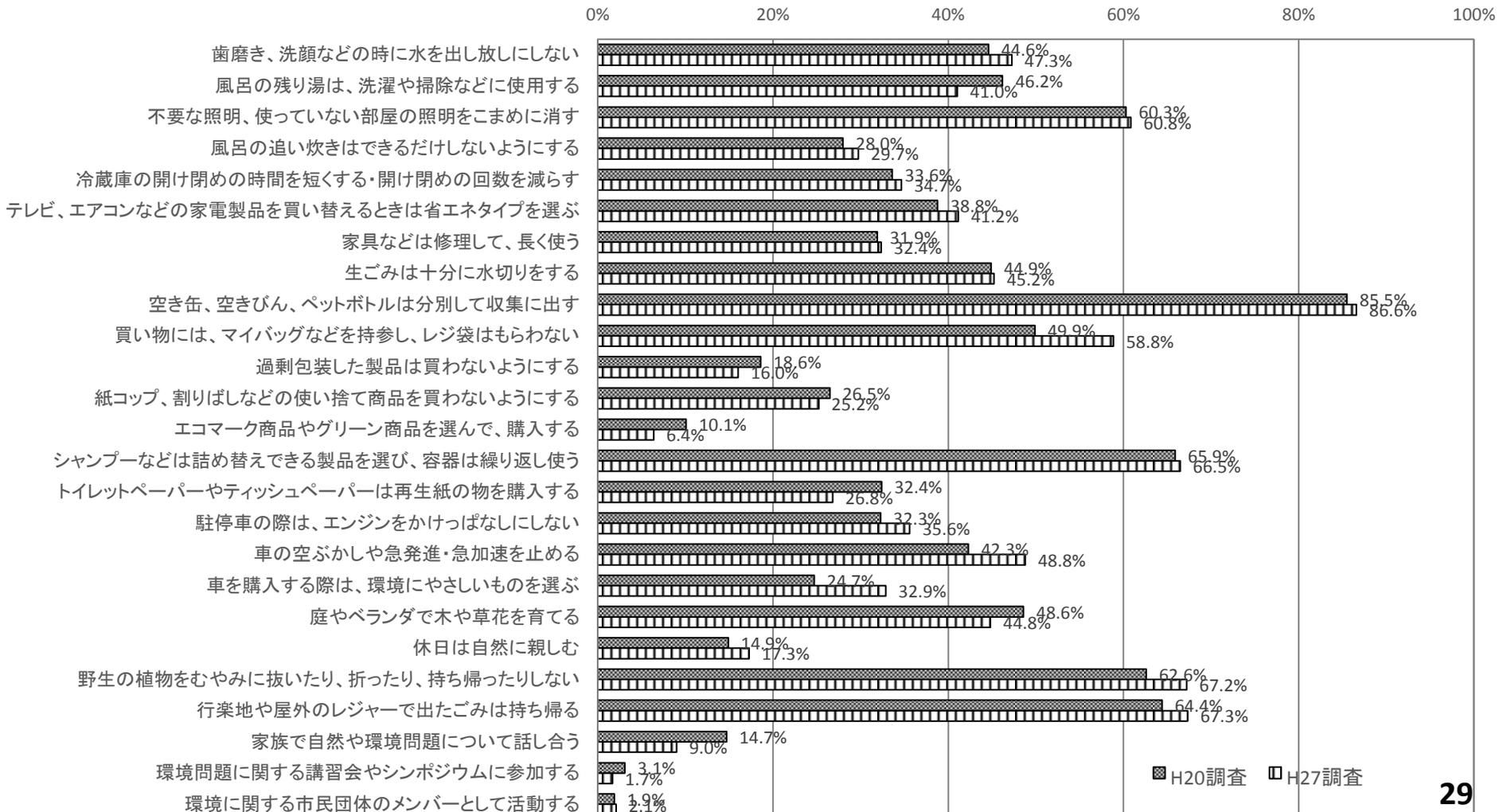
- ・現状では、自らの時間を割いて環境に関わる活動に参加する市民は限られており、環境への意識が高い市民が活動に参加しやすくなる工夫が求められている。
- ・環境に配慮した行動を行っていない理由としては、「どのような行動を行ったらよいかわからないから」(39.1%)が最も多く、具体的でわかりやすい情報提供が期待されている。

良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり(3) 定量目標の進捗

【日常生活における環境配慮行動(25項目合計)】 目標:926.7%→ 実績:945.3%(平成26年度)

【進捗に対する評価】○

日常生活における環境配慮行動について「常にしている」との回答は前回調査よりも微増となっている。今後、環境教育・学習の推進を通じ、環境に対する意識に加え、行動に移すための仕組みづくり・人づくりを推進していく必要がある。



良好な環境を支える仕組みづくり・人づくり(4) 取り組みに対する評価

分野別施策	取り組みの経過	評価
①地域環境力を向上させるまちづくりの仕組みをつくる	環境影響評価制度等における市民意見の提出や、地域の環境資源を活用した市民参画による事業等を実施	環境面で地域ごとに独自性のあるまちづくりが進展、早期配慮アセスについては、さらに検討が必要
②環境の視点が組み込まれた社会経済の仕組みを整える	バス・地下鉄の企画乗車券の発行や、環境配慮型店舗の認定、地域版環境マネジメントシステムの普及を促進	環境配慮行動の拡大に一定の成果を挙げており、今後は取り組みをさらに拡大する
③環境づくりを支える市民力を高める	「杜の都の市民環境教育・学習推進会議(FEEL Sendai)」における環境教育・学習の推進、出前講座等を実施	環境に関わる人材の育成や、学びの機会創出に寄与したが、より積極的に取り組む市民の育成が必要
④環境についての情報発信や交流・連携を進める	ごみ減量・リサイクル情報総合サイト「ワケルネット」等の運営、環境フォーラムせんだいの実施	情報提供やイベントにより交流機会が充実しており、更なる取り組みが必要

総括

- ▶ 持続可能な社会を先導する都市・仙台の創造を目指し、4つの環境都市像に関する5つの施策体系に基づき、10項目の定量目標を設定し、数多くの取り組みを推進。
- ▶ 市民意識調査では、周辺環境の満足度や環境配慮行動の実践度が平成20年の調査結果から概ね維持・向上するなど、取り組んできた施策は全体として一定の成果を挙げている。
- ▶ また、市民意識調査における「今後の仙台市の都市像」及び「今後展開すべき環境政策・施策」において回答割合が高かった項目からは、市民の意識と分野別都市像や施策の大きな方向性は合致。
- ▶ 一方で、温室効果ガス総排出量、ごみ総量・リサイクル率、猛禽類の生息環境など一部の定量目標については、進捗に遅れが生じている。これらの遅れは、外的要因である東日本大震災の影響等による部分も大きいですが、特に「低炭素都市づくり」と「資源循環都市づくり」においては、目標設定の前提となる社会情勢の変化が大きくなっている。
- ▶ 以上のことから、本市が目指す都市像及び施策の体系を基本的に維持しつつ、都市像の実現に向け施策を推進するために、「低炭素都市づくり」及び「資源循環都市づくり」については、あらためて適切な目標を設定のうえ、一層の施策内容の充実に向け計画の改定を行う必要がある。